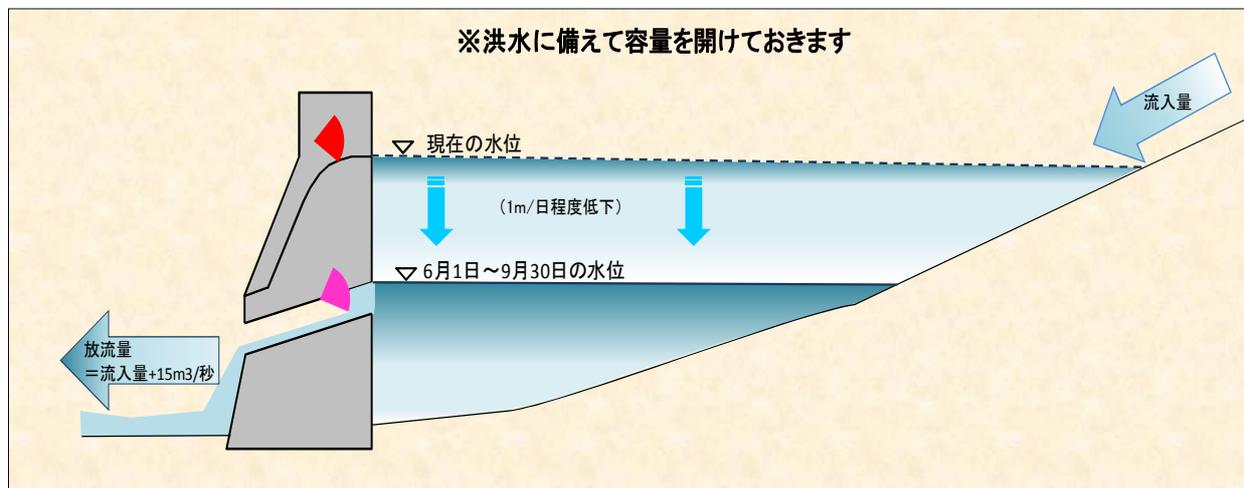


**ダム貯水位を低下させるため、ダムからの放流量を増やします  
(洪水期に向けて洪水調節容量を確保するため)**

月山ダムでは、前線や台風による大雨が多くなる時期（洪水期：6月1日～9月30日）に備えて、ダムに貯留できる容量を確保するため、5月7日（火）から6月1日（土）にかけて1日あたり1m程度貯水位を低下させます。このため、ダムからの放流量を若干増やしますので、下流河川の水位変化にご注意ください。



河川の水位変化について

月山ダムからの放流量の目安は、流入量（ダムに流れ込んでくる水の量）+約15m<sup>3</sup>/秒として調整します。この+15m<sup>3</sup>/秒による下流河川水位の上昇量は、梵字川の三栗屋橋付近で約10cm、赤川の熊出地点（赤川頭首工下流付近）で約5cmの見込みです。

ダム流入量は、融雪や降雨の状況により変化しますので、同様にダム放流量の変化に伴い河川の水位も変化します。

～月山ダムの状況の確認はこちらから～  
<http://www.thr.mlit.go.jp/gassan/>

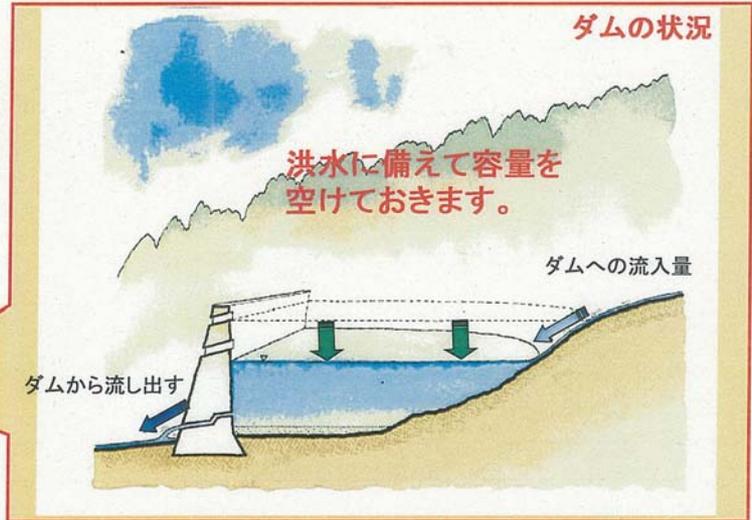
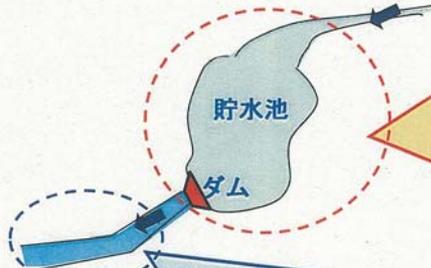
問い合わせ先

国土交通省 東北地方整備局 月山ダム管理所  
山形県鶴岡市上名川字東山8-112  
電話 0235-54-6711  
管理所長 佐々木 秀明（内線201）  
管理係長 矢ノ目 健一（内線332）

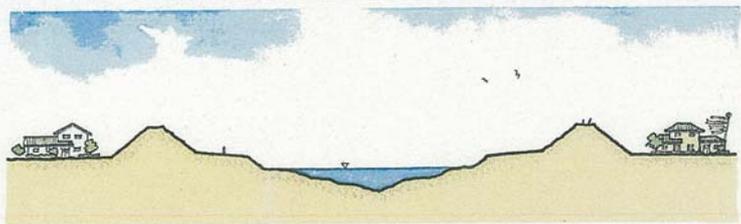
### ダムによる防災操作の仕組み①

#### ① 洪水に備える

洪水に備えて、台風や大雨による洪水の起きやすい季節には、前もって貯水位を下げて容量を確保しておき、洪水の水をダム貯水池に貯めるための準備をします。



下流の河川の状況

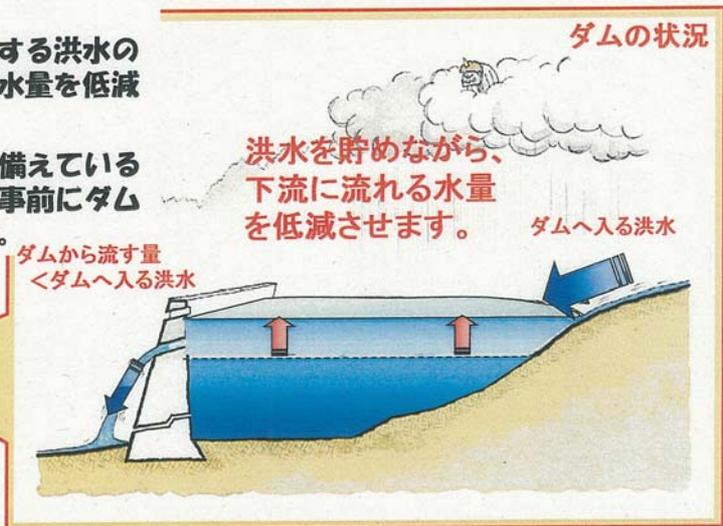
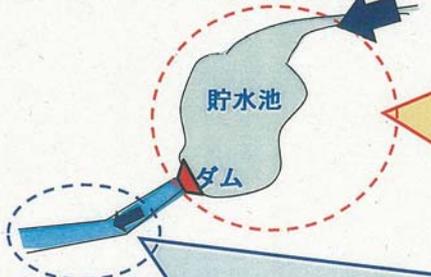


### ダムによる防災操作の仕組み②

#### ② 洪水を貯め込む（防災操作）

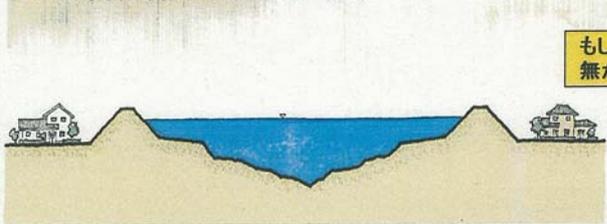
大雨が降り洪水になると、ダムへ流入する洪水の一部をダムに貯め込んで、下流に流れる水量を低減させる操作を行います。

ダムから下流に流す水は、①の洪水に備えている時より増えます。このようなときには、事前にダムからスピーカ等で状況をお知らせします。



下流の河川の状況

ダムで防災操作を行った場合



防災操作を行うダムがない場合

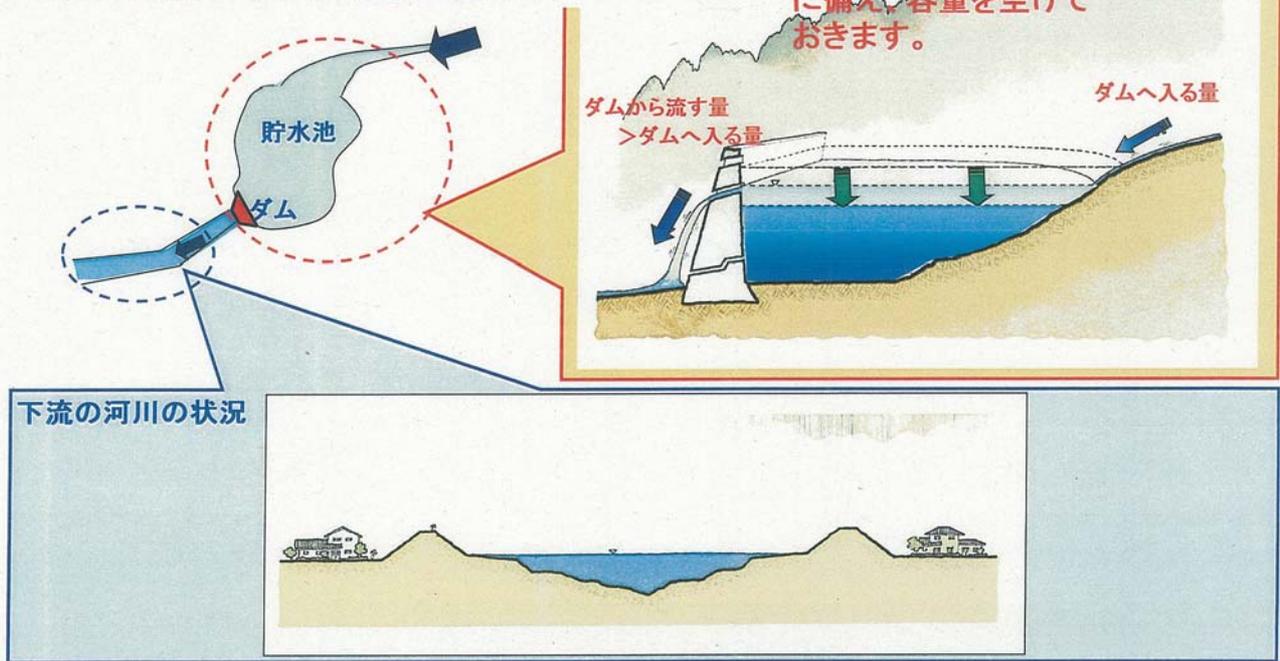


## ダムによる防災操作の仕組み③

### ③次の洪水に備える

大雨が止み、洪水が過ぎ去ると、ダムへ流れ込む水量も小さくなります。

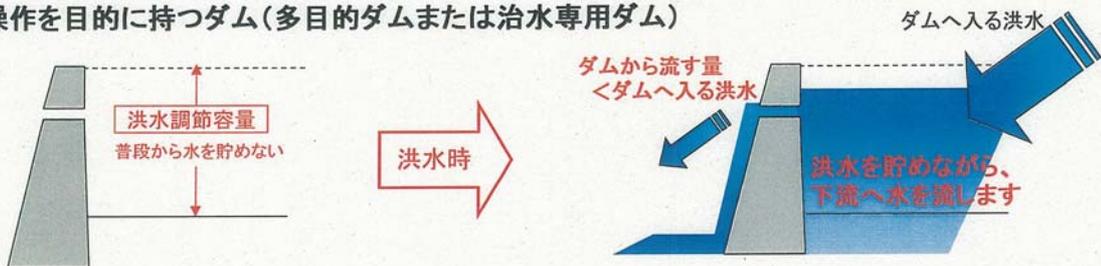
貯水池は、洪水を貯めた分だけ水が増えているので、次の洪水に備えて、下流の河川の状況を見ながら、貯めた水を流して貯水池の容量を空けます。



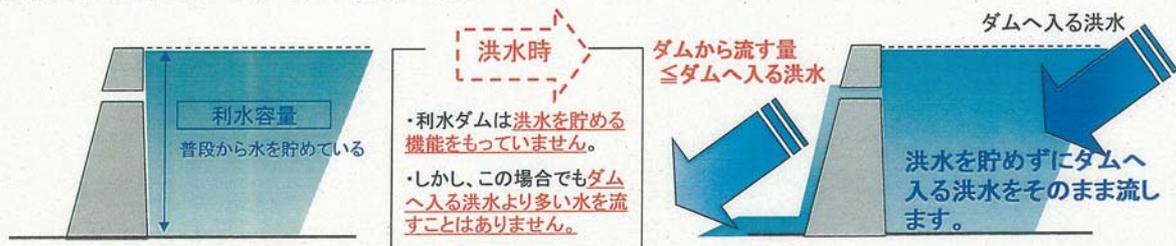
## 防災操作機能のあるダムと無いダム

ダムにも様々な目的をもつダムがあり、ダムにより洪水時の操作は異なります。

### ①防災操作を目的に持つダム(多目的ダムまたは治水専用ダム)



### ②利水のみを目的に持つダム(利水専用ダム)



※利水ダムでも貯水容量が大きいなど容量がある場合は、洪水の一部を貯めることがあります。

### ③防災操作と利水を目的に持つダム(多目的ダム)

防災操作の機能と、上水道、工業用水、農業用水、発電用水等多様な目的を持つダム。